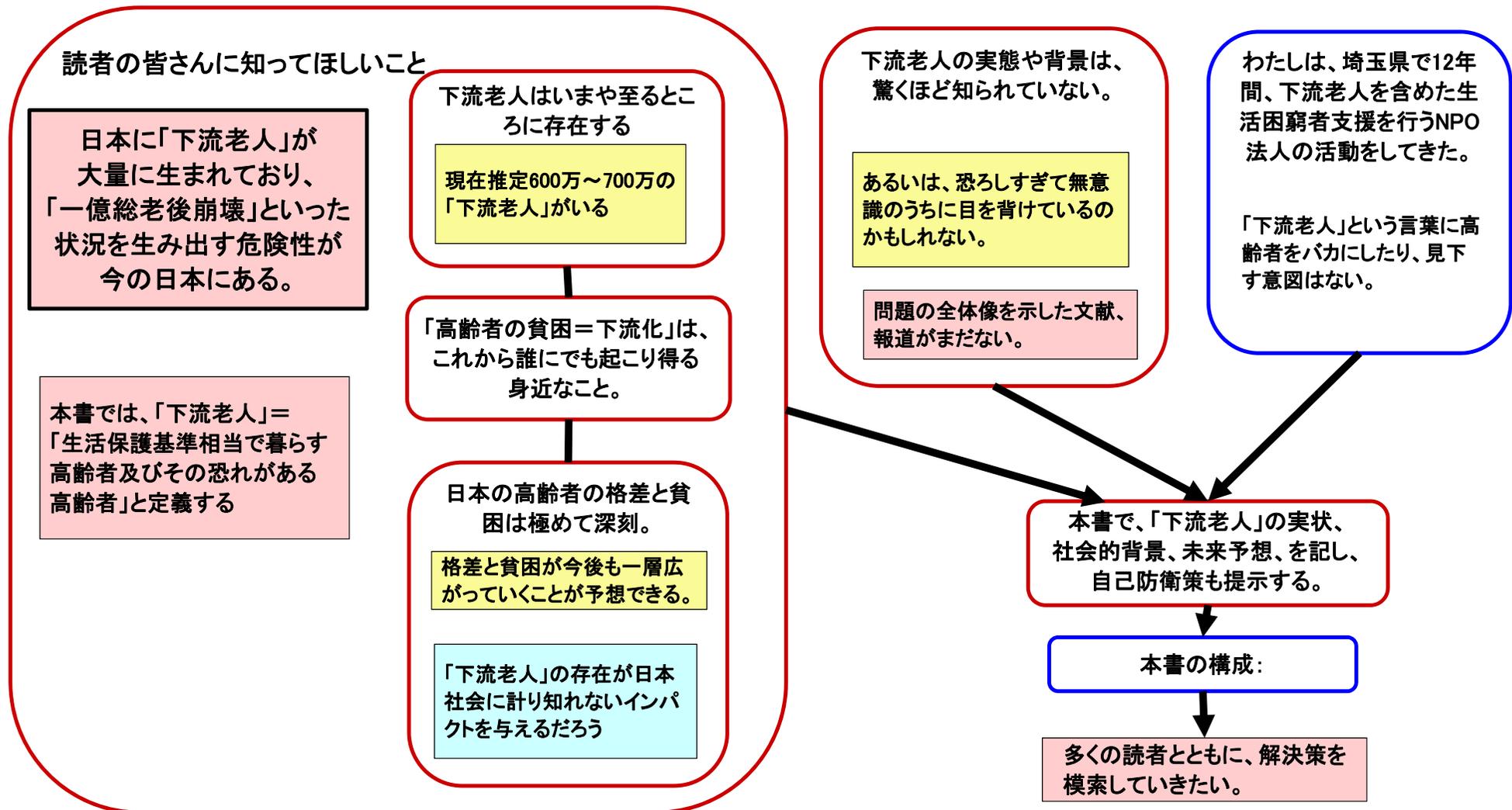
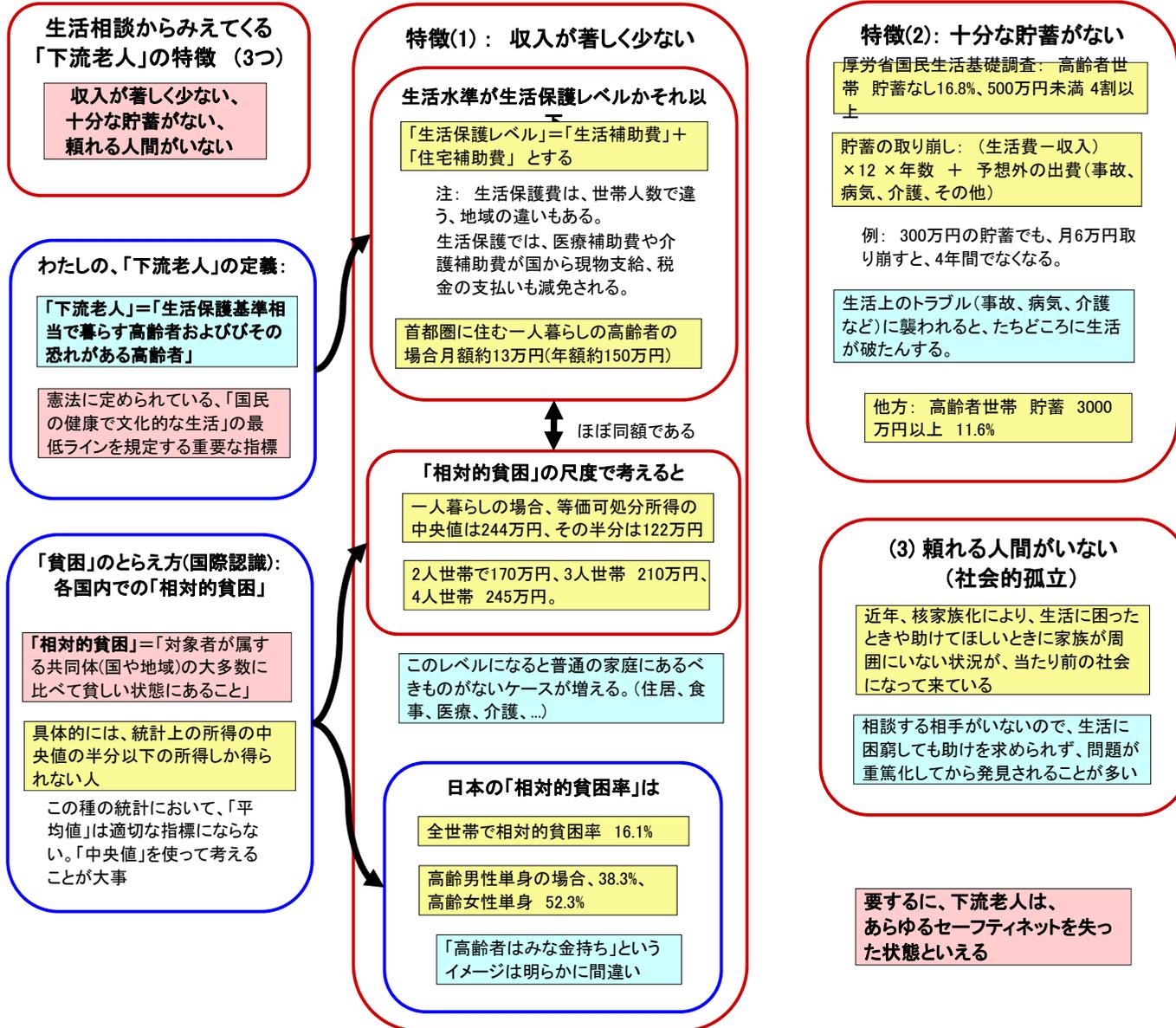


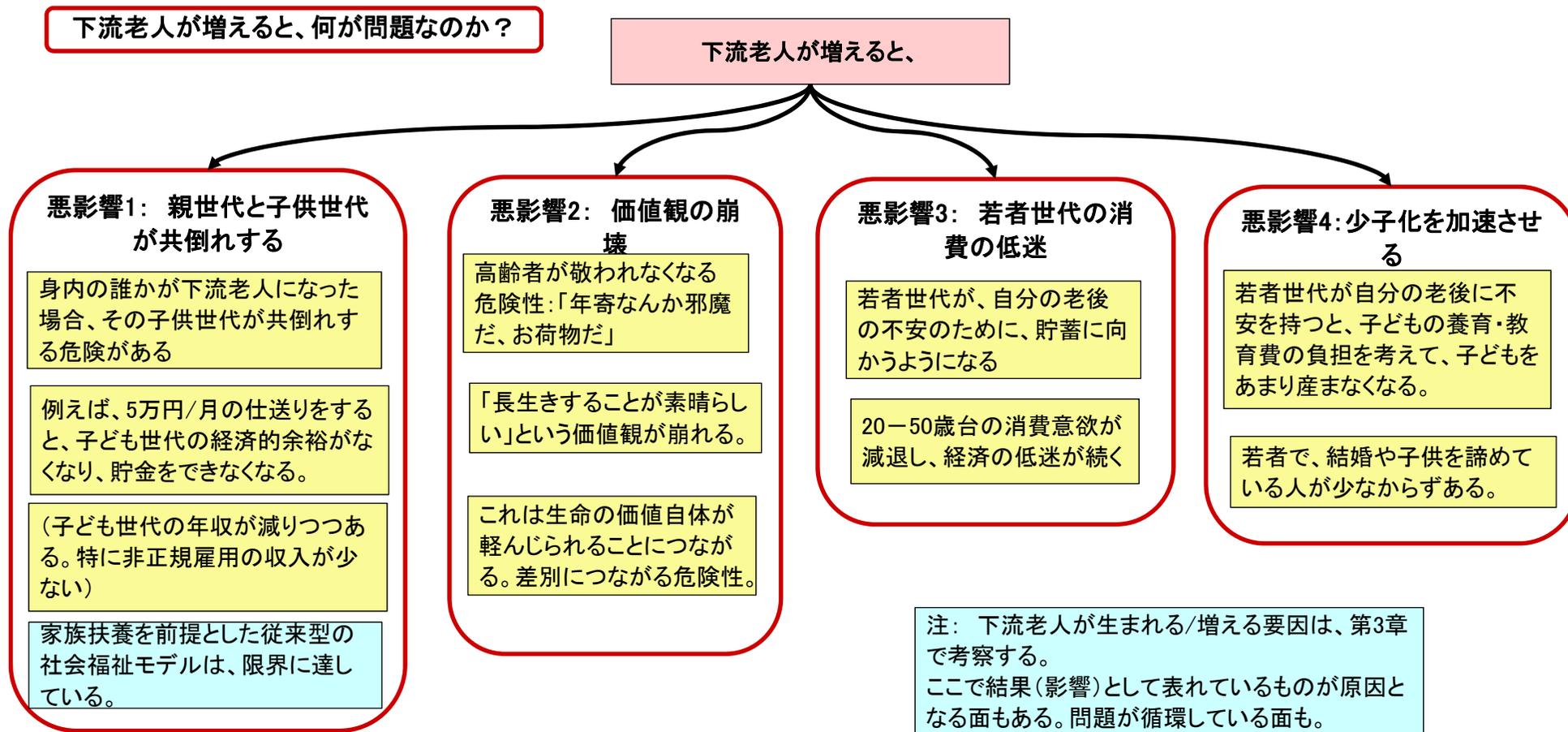
『下流老人：一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典（朝日新書、2015. 6.30） (0) 「はじめに」

「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015. 9. 2）

「見える化」した要約版（2015. 9.11）



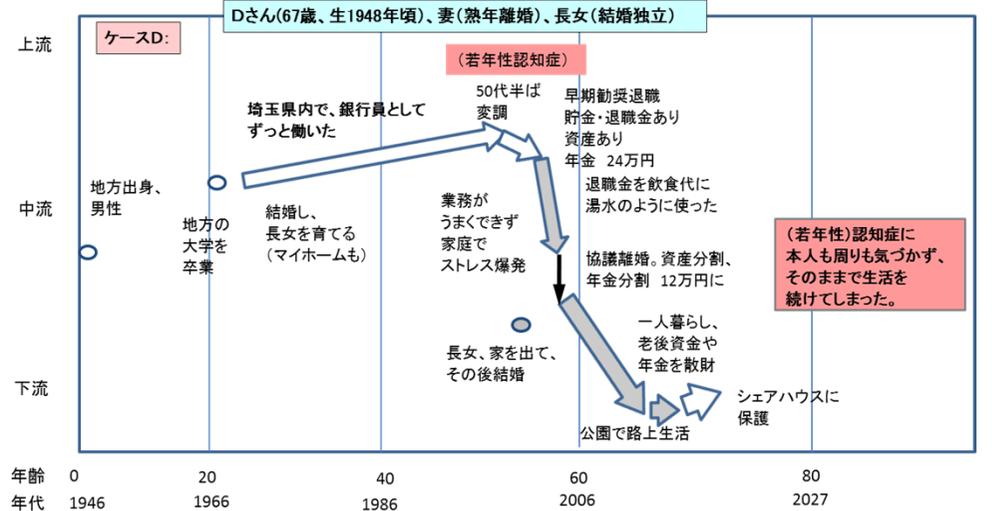
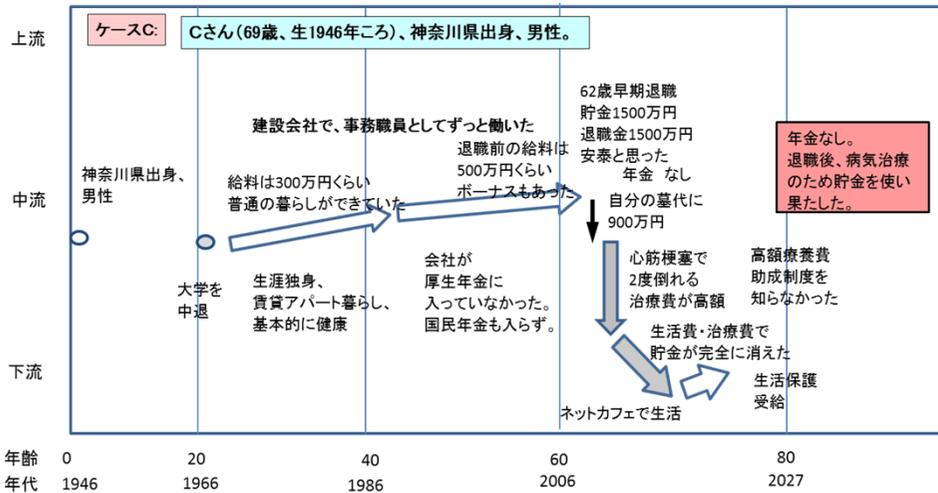
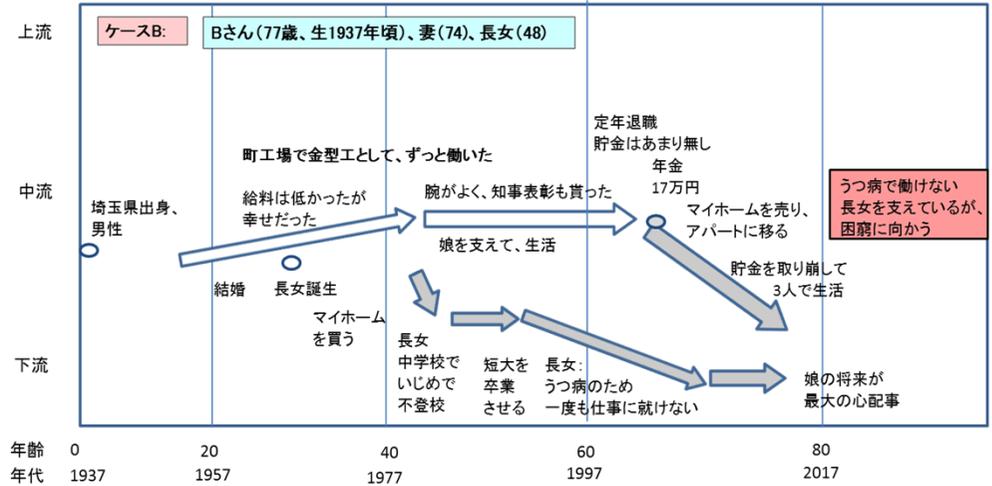
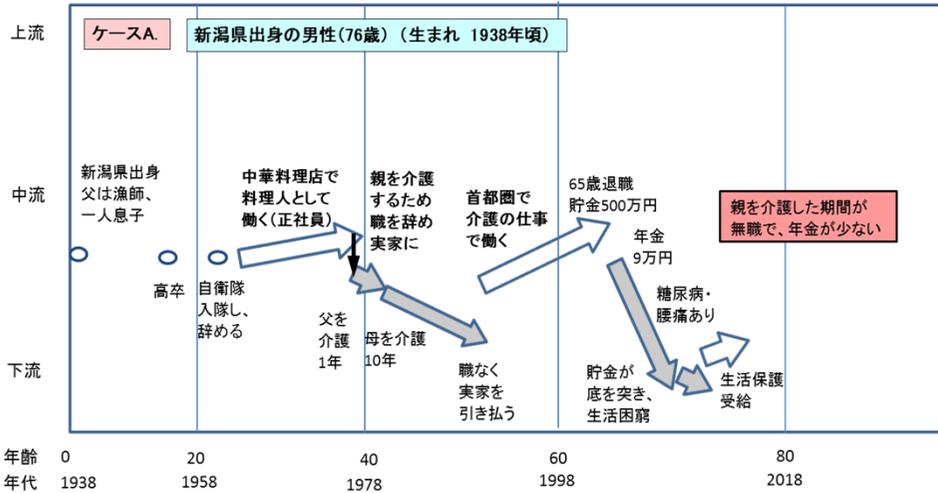




『下流老人：一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典（朝日新書、2015. 6） (2) 「下流老人の現実」

「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015. 9. 6）

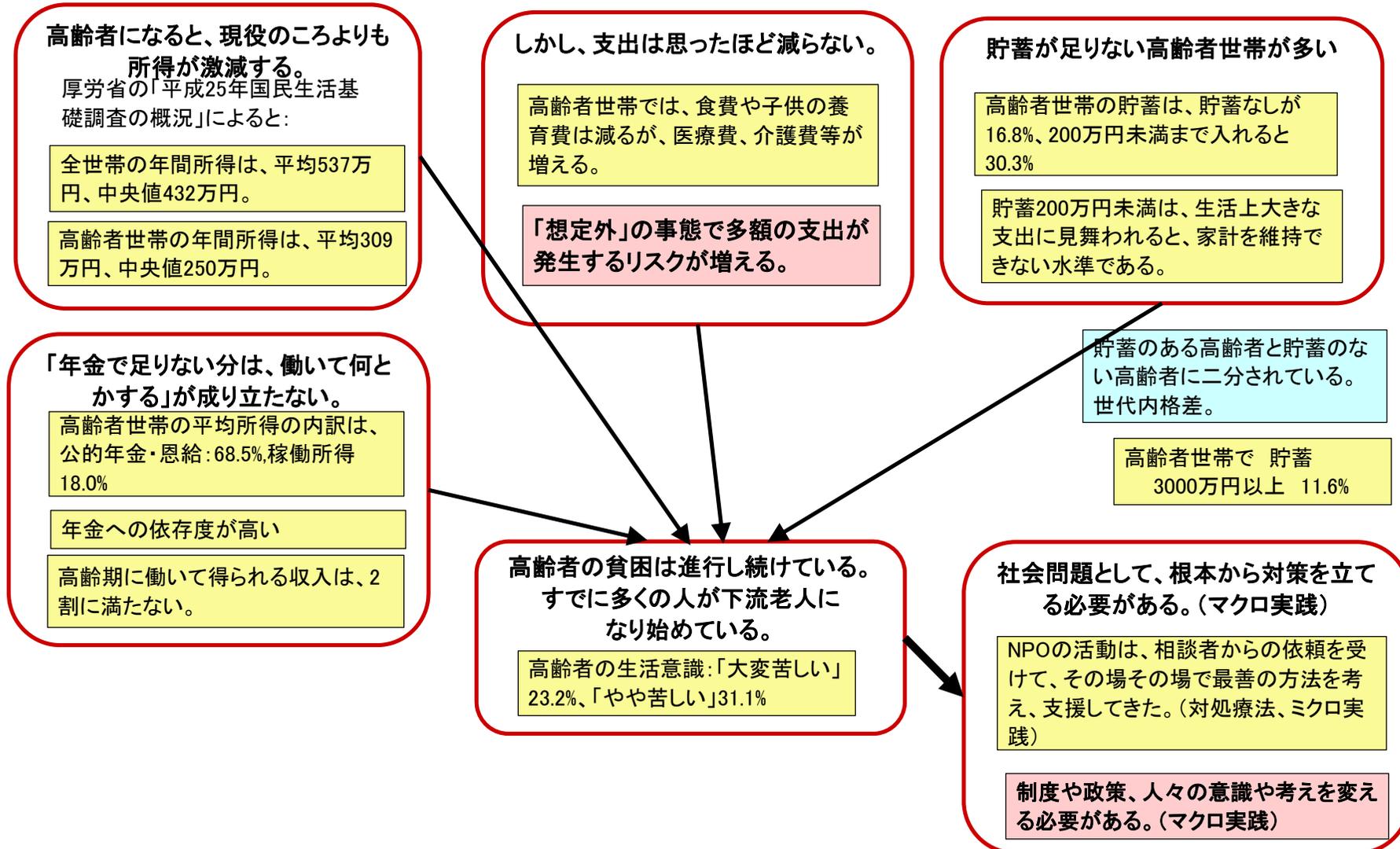
第2章 下流老人の現実 2A: 4つのケース ケース概要の図示： 中川 徹（2015. 9. 7）



『下流老人:一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典 (朝日新書、2015. 6) (2) 「下流老人の現実」
「その論点のまとめと可視化 (「札寄せツール」による図示)」 (中川 徹、2015. 9. 7)

第2章 下流老人の現実 2B: 現実の背景

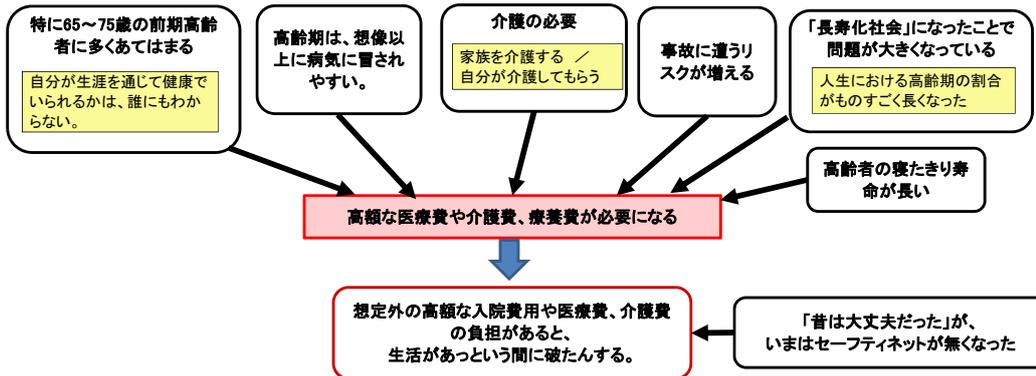
下流老人の事例は、「誰か知らない人」だけの問題ではない。
その根拠を示す。



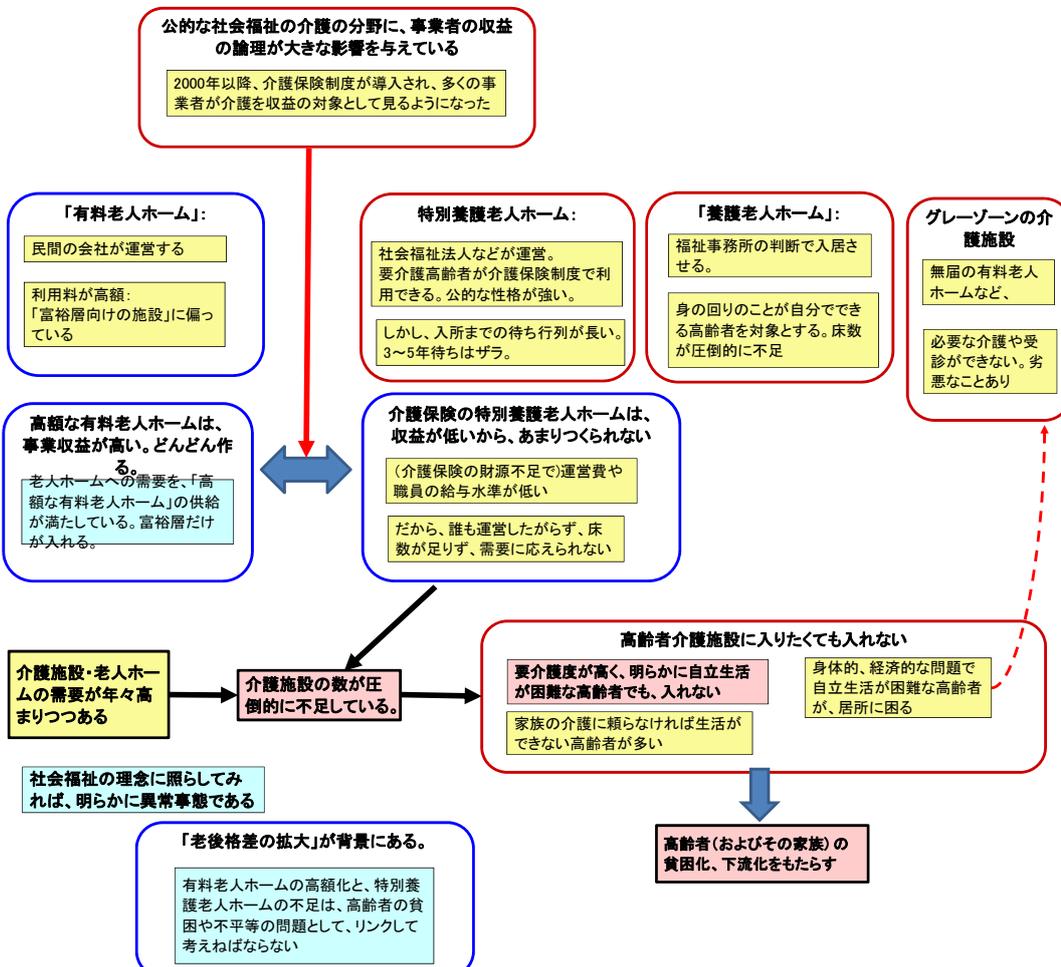
第3章 誰もがなり得る下流老人 - [普通]から「下流」への典型パターン3A: 現状編



下流化のパターン1: 病気や事故による高額な医療費の支払い

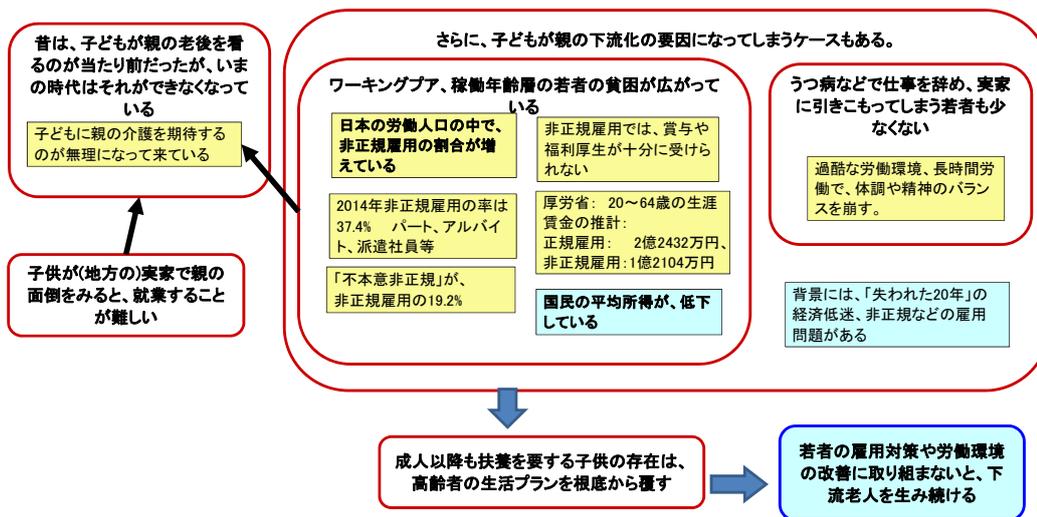


下流化のパターン2: 高齢者介護施設に入居できない

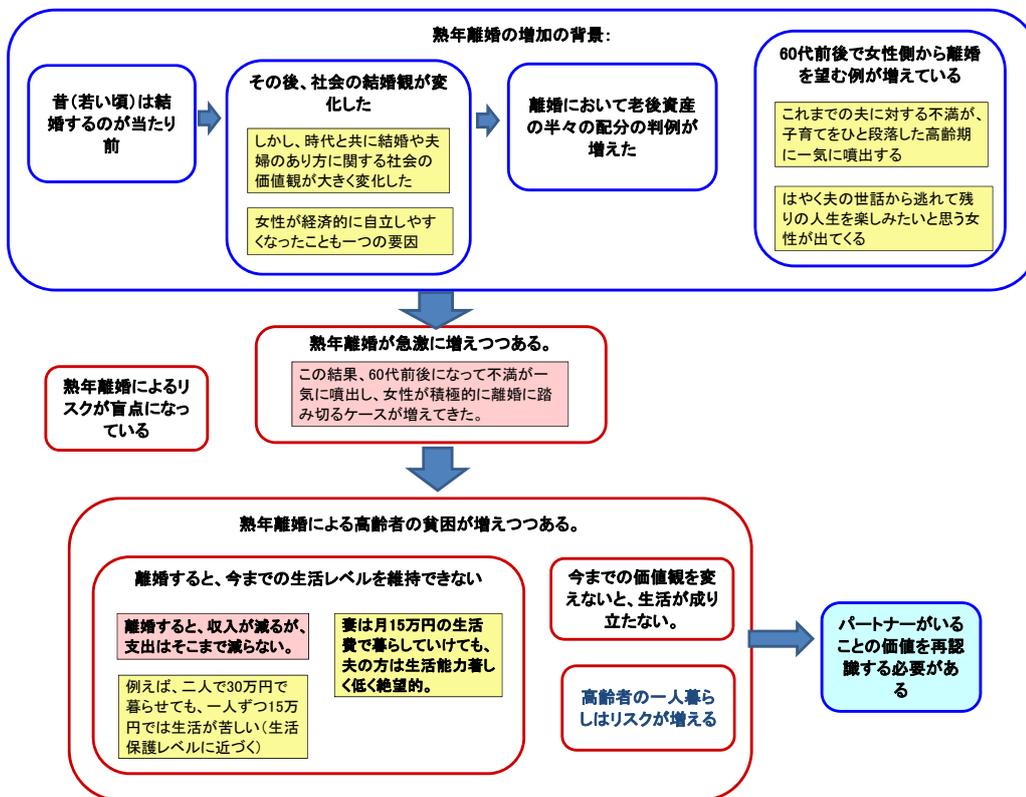


高齢者(およびその家族)の
貧困化、下流化をもたらす

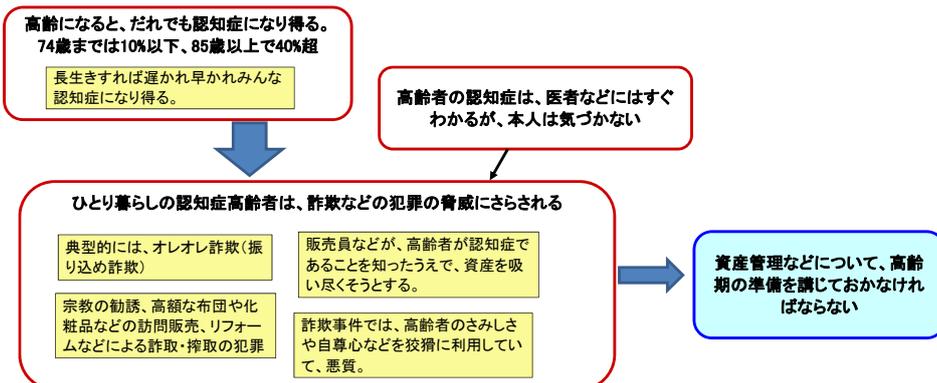
下流化のパターン3: 子どもがワーキングプア(年収200万円以下)や 引きこもりで 親に寄りかかる



下流化のパターン 4: 増加する熟年離婚



下流化のパターン 5: 認知症でも周りに頼れる家族がない



高齢期の下流化は、今後さらに広く厳しくなる。
下流化の芽は、若年～壮年期のいろいろな
ところに顕われている。

ここからは現役世代に視点を
移して考えよう

貰える年金がまったく足りない、減る恐れがある

一般水準の給与をもらっ
ても、老後の年金額
は月20万円を下回る

平均年収の400万円では、
高齢期に「ギリギリの生
活」を強いられる

例：現在（2015年）65歳
の人で、20～60歳の平均月
収38万円とすると、厚生
年金は月16.5万円。

また今後、年金制度維持
のために受給額が減る可
能性が高い

国民にはまだ、「一億総中
流意識」、「年金信仰」が
あるが、それらは幻想に過ぎ
ない

私たちは全員が、緩やか
にしかし確実に貧困に足
を踏み入れている

現役世代が高齢になっ
た時、年金だけではとうい
生活できない。

現在の高齢者は、
圧倒的に恵まれた
世代だが、それ
でも下流化が起こっ
ている

国内の金融資産の
多くを60歳以上の
高齢者が保有して
いる

これからの日本は、「ご
く一握りの富裕層」と
「大多数の貧困層」に分
極するだろう。

日本で今後経済格差がま
すます拡大することは明
らか。

世界の先進国で、このよ
うな「富の一極集中化」が進
行している。

昔の「年収400万円」と今の「年収400万円」では、意味合いが大きく違う

昔あったさまざまな「見え
ざる恩恵」が、いまはこと
ごとく消滅した

企業の福利厚生の多くがカッ
トされてしまった。

今は、貯蓄の余裕が
ない

高齢期の（親の）生活
を家族（子ども）が扶助
することは、ほとんど絶
望的

住宅補助（社員寮）、各種手当
による補助の多くがカットされた。
企業のボーナスや退職金の額
も着しく減額、あるいは消滅し
た。

特に都市部では、豊
かなこと/人を前提に
した社会システムがで
きてきている

現在の勤労者世帯の貯蓄
は十分でなく、今後高齢期
に下流化するリスクが高い

貯蓄額500万円未満が
39.5%
これで高齢期に入ると、
下流化するリスクが高い

高齢者の貧困は死に直結
する。貧しい食事、病気、劣
悪な居住環境、

親が残した（地方の）
住宅や土地などの固定
資産が、逆に子ども
の生活を苦しめる
ことがある

全国の空き家数は、
2013年 820万戸
13.5%

管理・維持・税に
お金がかかり、売り
たくても売れない状
況がある

このような「不良資産」の
問題が今後表面化してい
くだろう

若者世代の未婚率の増加
も、将来の下流化リスクを
高める。

生涯未婚率は、（2010年）男
性 20.14%、女性 10.61%

経済的な理由から、結婚し
ないできない、諦めている）
人々が増えている

また、結婚しても離婚する
割合が増える

家族を作らないことは、自
分の老後の社会的孤立
のリスクを高める

社会福祉や社会保障
は、すべて世帯を単位
に制度が構築されてき
て、家族がいる前提で
初めて十分に機能する。
この制度が対応できな
くなる。

非正規雇用は
下流化に直結する

非正規雇用の賃金は、
正規雇用よりも（同一労働
でも）低い

非正規雇用は不安定

（厚生年金や社会保険に入っ
ていないなど）福利厚生が弱い

同じ「年収400万円」でも、（非正
規雇用で）厚生年金を掛けてい
ないと、年金は（国民年金部分）
約78万円/年だけ

この額では、まったく生活でき
ない

勤労者の立場で要求す
るべき

非正規雇用が40%の社
会で、正規/非正規の
収入格差は、もはや「自
己責任」で片づけてよい
問題ではない

労働条件や賃金の向上
について、（雇用形態に
関係なく、一枚岩になっ
て）企業や経営陣に改
善を要求しなければならない

退職後、高齢者になっ
てから、考えても遅い。いま
から声を上げるべきだ

現在の政府の政策や企業
の主張は、貧困を解消せず、
拡大させている

雇用問題を改善する手段とし
て、とかく（政府や企業から）
「さらなる経済成長」が叫ばれ
がちだ

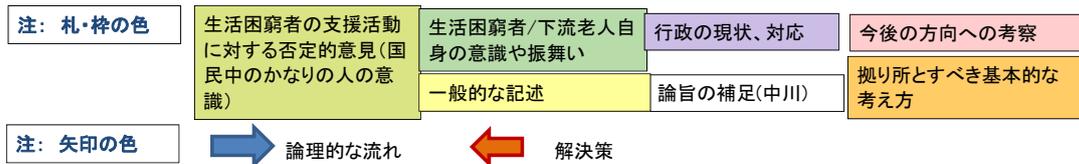
しかし、「経済が成長すれば、
非正規雇用が減り、正規雇
用が劇的に増えて皆が幸せ
になる」ということはない

「富裕層がさらに豊かにな
れば、貧困層にも富が自然
としたり落ちる」と称するト
リクルダウン政策は、貧困
問題の改善に寄与してい
ない

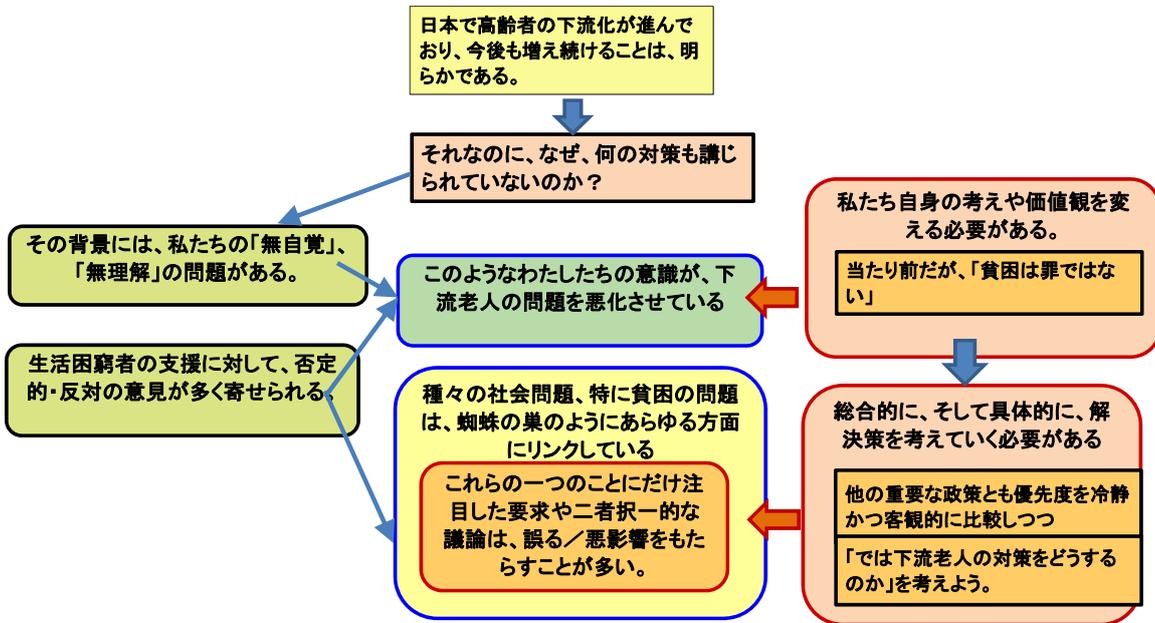
企業は、景気の浮き
沈みに関係なく、内
部留保を蓄え続けて
いる

財務省調査：
企業の利益剰余金：
1988年 100兆円超、
2004年 200兆円超、
2012年 300兆円超

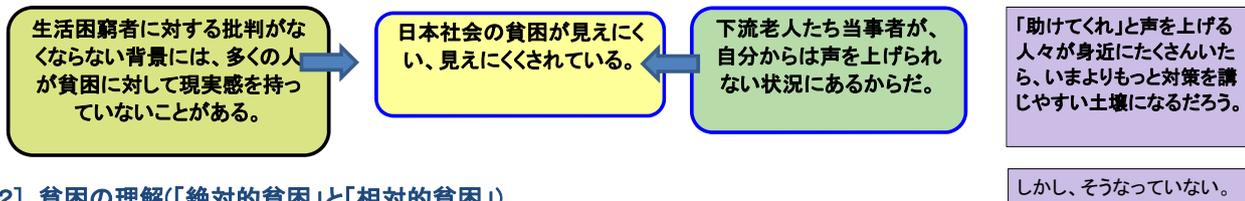
第4章 「努力論」「自己責任論」があなたを殺す日 第4章 意識と理解の問題



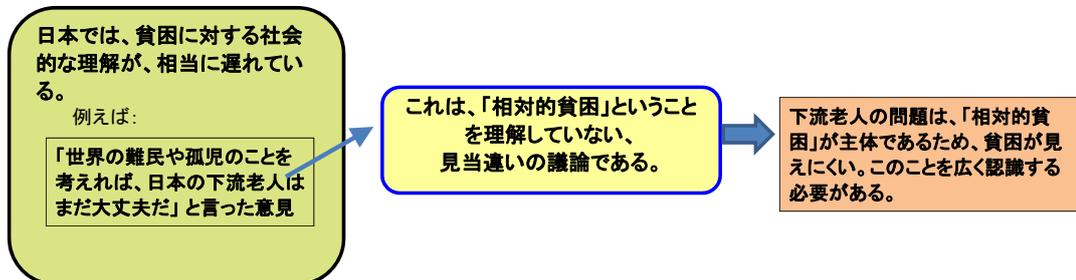
[0] はじめに：問題の状況と方向の概要



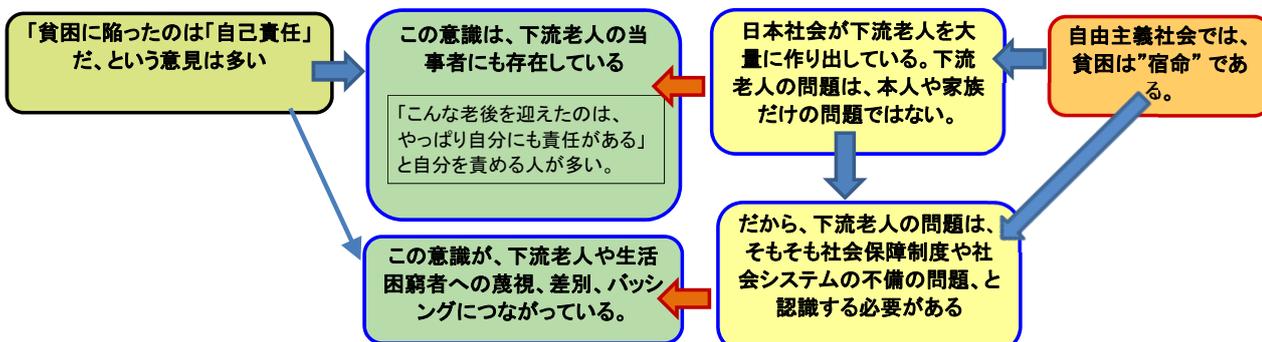
[1] 貧困が見えにくい



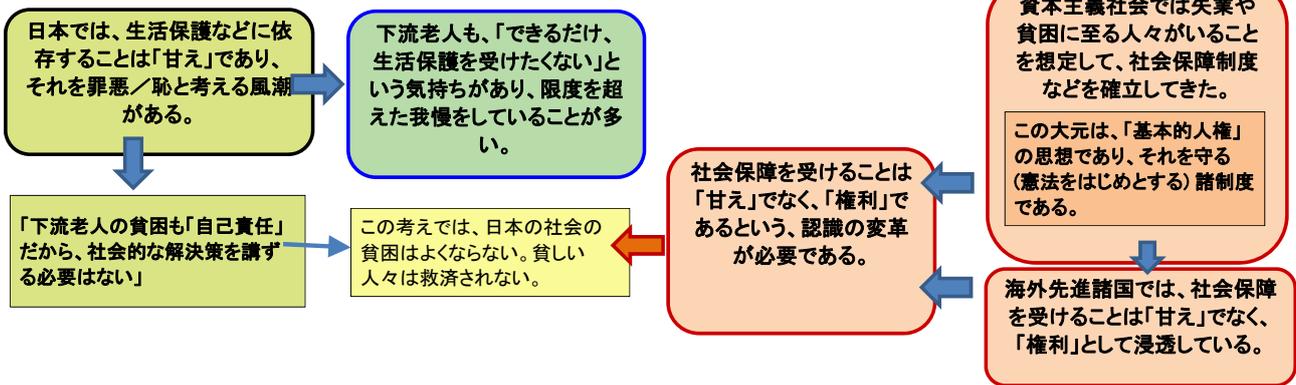
[2] 貧困の理解（「絶対的貧困」と「相対的貧困」）



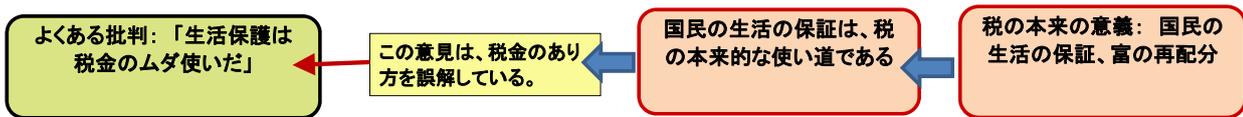
[3] 貧困は自己責任か？—貧困が起きることは、自由主義社会の宿命である



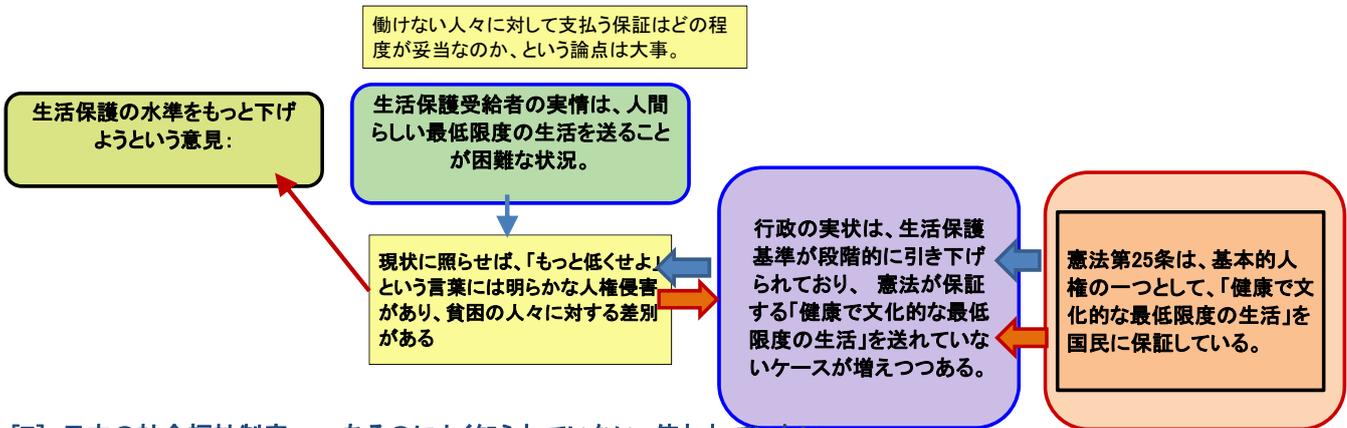
[4] 社会福祉(生活保護)を受けるのは「甘え」と考える風潮。— 憲法に保証された権利である



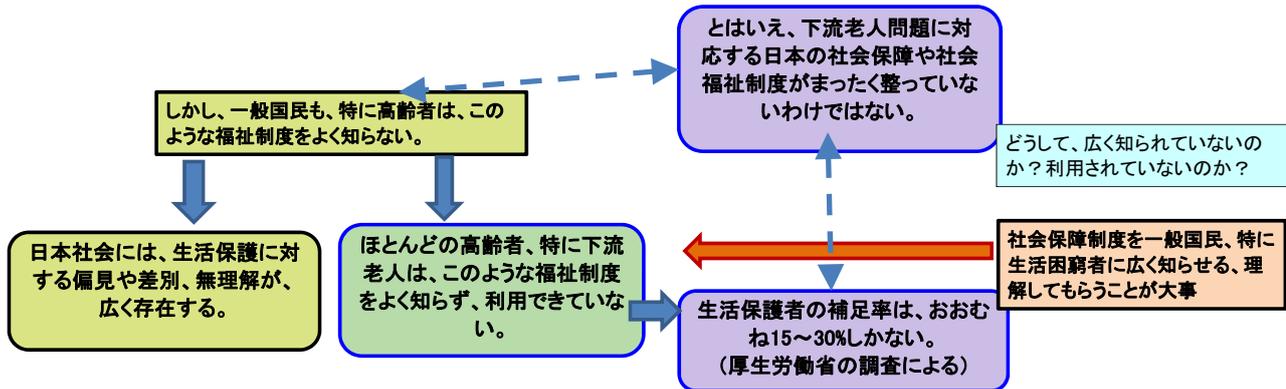
[5] 生活保護は税金のムダ使いか？ — 税金の本来の意義



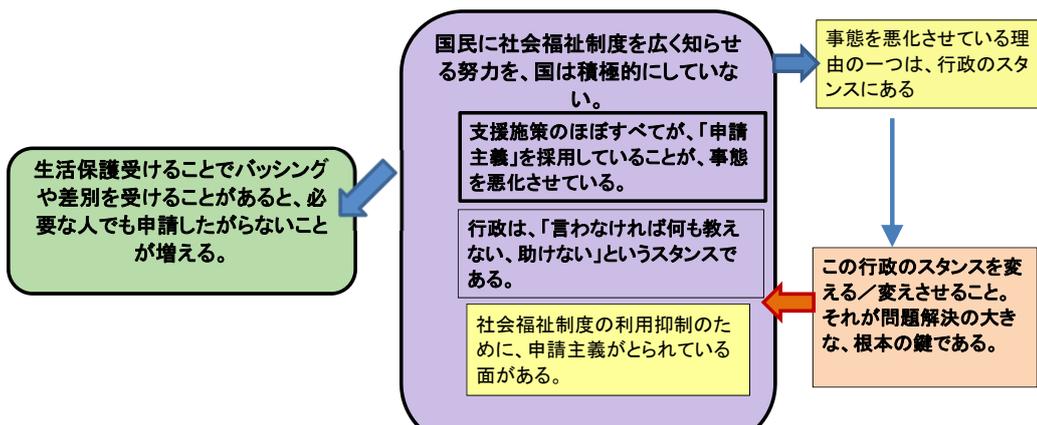
[6] 生活保護の水準は？ — 憲法が保証している「健康で文化的な最低限度の生活」



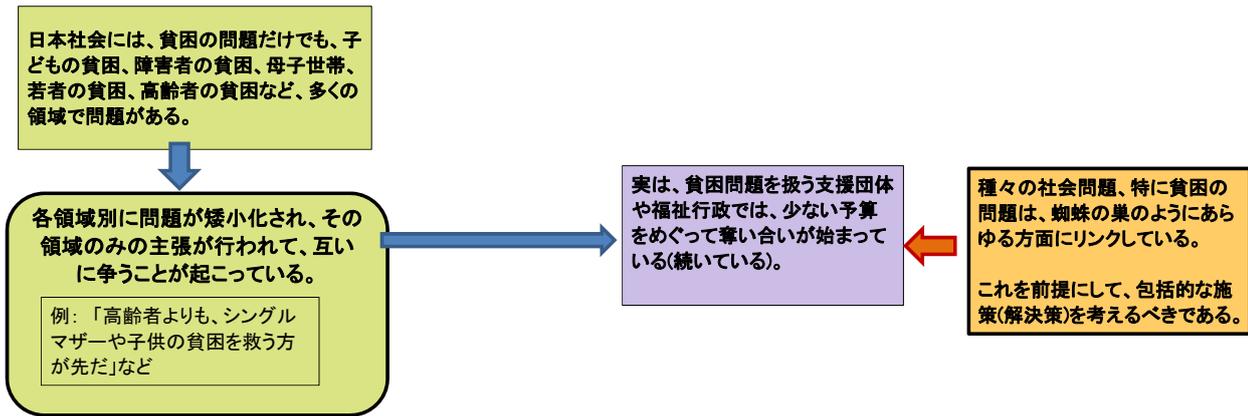
[7] 日本の社会福祉制度 — あるのによく知られていない、使われていない



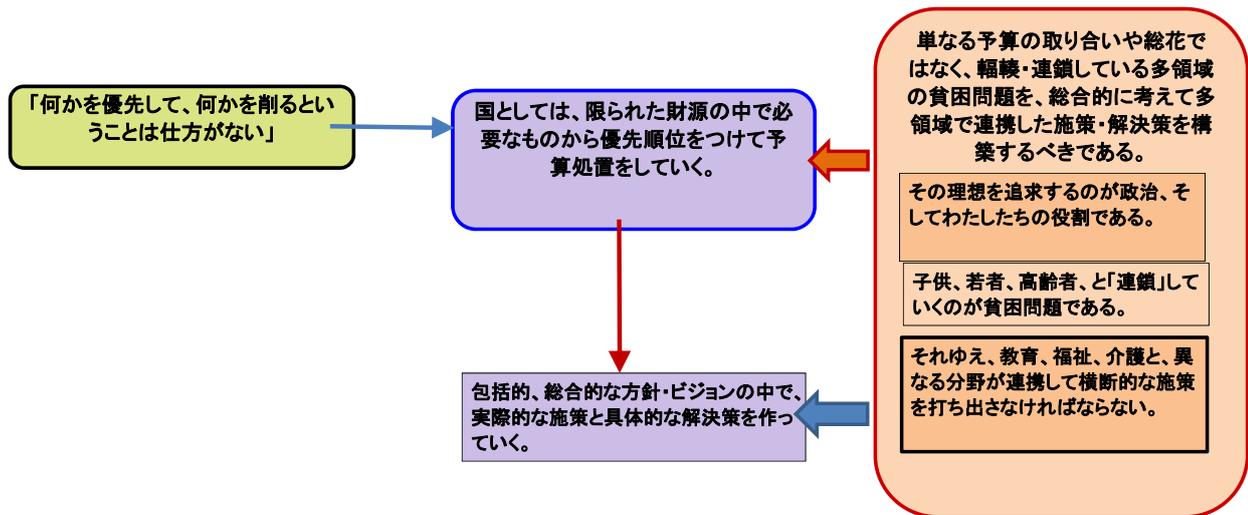
[8] 日本の福祉行政のスタンスの問題 — 「本人が言わなければ、教えない、助けない」



[9] 「下流老人よりも、子どもが先」か？ — 個別視野の議論による財源の奪い合いの弊害



[10] 解決すべき方向の考え方 — 領域を跨る総合的な政策とその中の各領域の解決策



『下流老人：一億総老後崩壊の衝撃』 藤田孝典（朝日新書、2015. 6）（5）制度と政策の問題点
 「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015. 12.15）

第5章 制度疲労と無策が生む下流老人 — 個人に依存する政府

本章では、日本の各種社会保障や社会システムを、下流老人の問題から検証する。

→ 論理的な関係(原因→結果など)
 ← 解決策

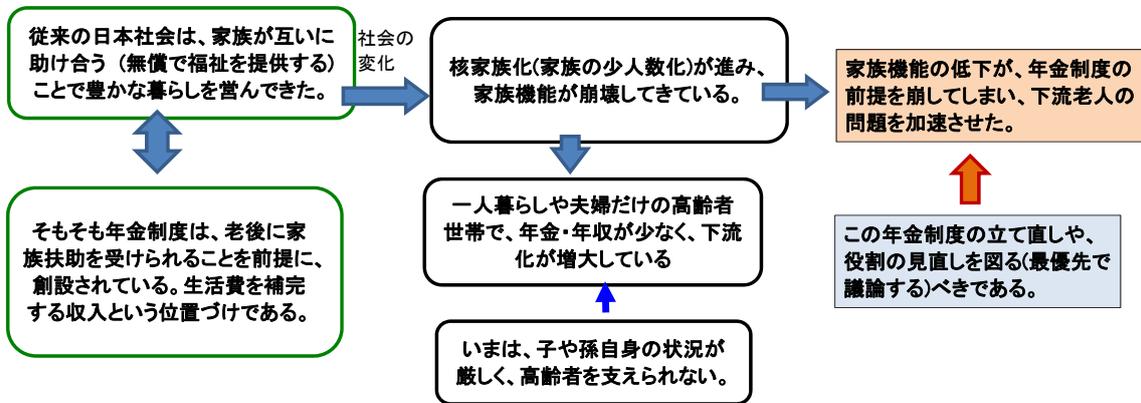
論点： 現制度が下流老人をどのように支援し、どれだけ寄与し、どんな不備があるか？

総括： 現在の社会システムが下流老人を生み出しており、その社会福祉制度は下流老人の救済にあまり寄与できていない

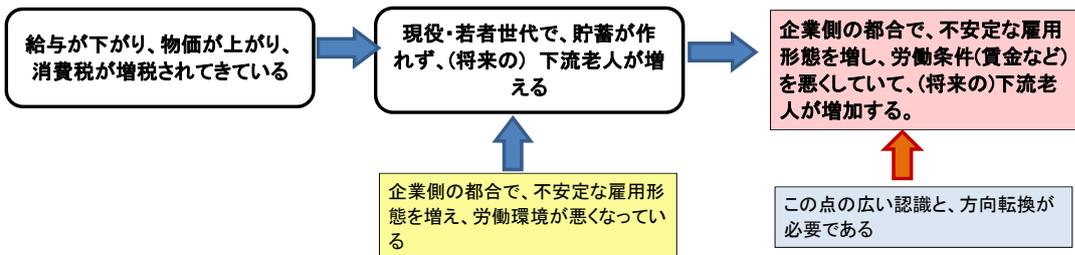
考察： 根本問題： 現在は「経済優先・弱者切り捨て」の原則に基づいた社会システム／政策であり、その下では下流老人の問題を簡単には改善できない

以下に8つの視点から検証する。

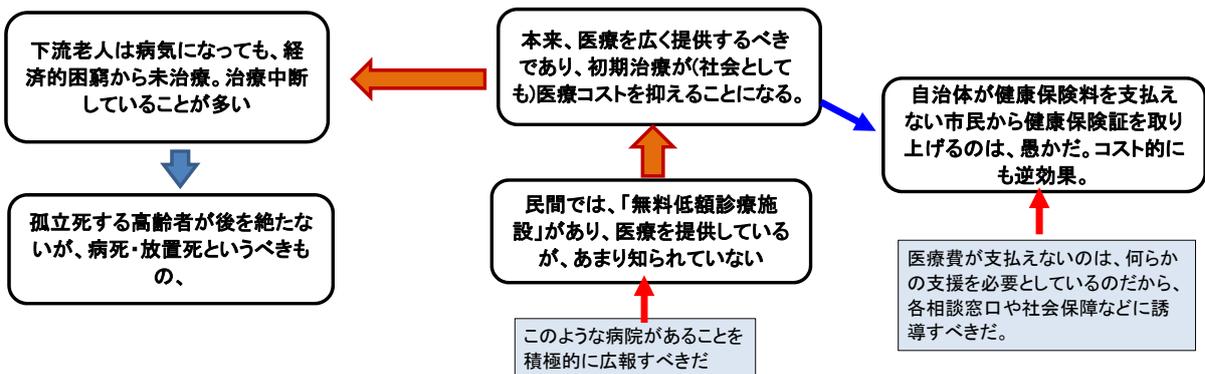
(1) 収入面の不備 — 家族制度を前提とした年金制度の崩壊



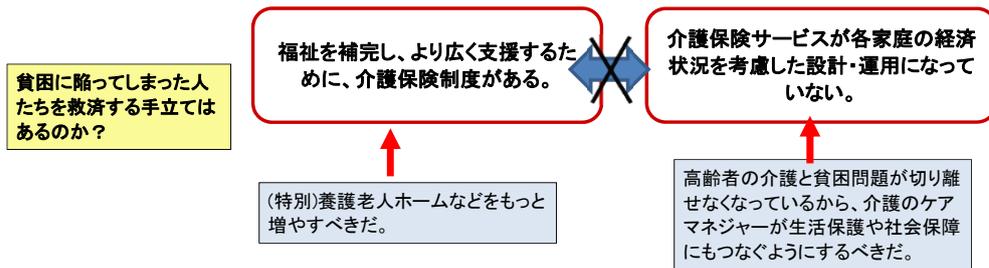
(2) 貯蓄・資産面の不備 — 下がる給与と上がる物価



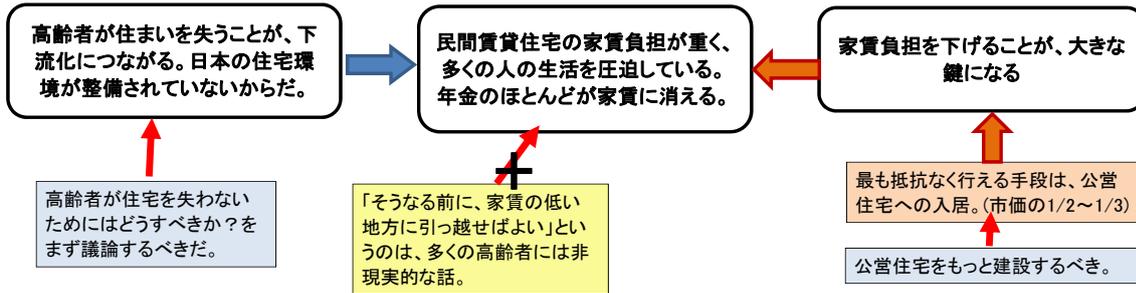
(3) 医療の不備 — “医療難民”が招く孤立死



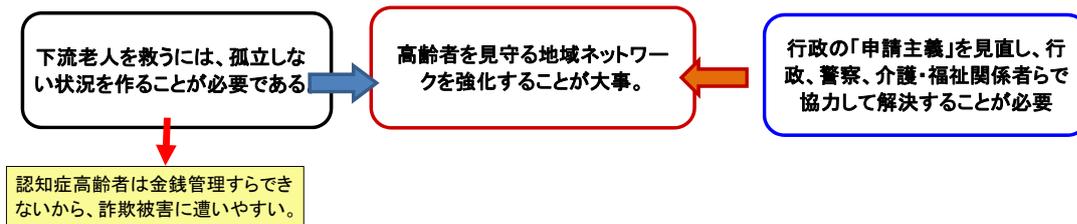
(4) 介護保険の不備 - 下流老人を救えない福祉制度、ケアマネジャー



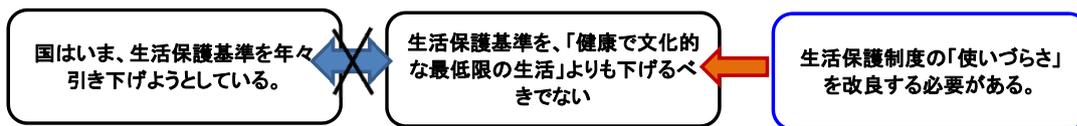
(5) 住宅の不備 - 住まいを失う高齢者



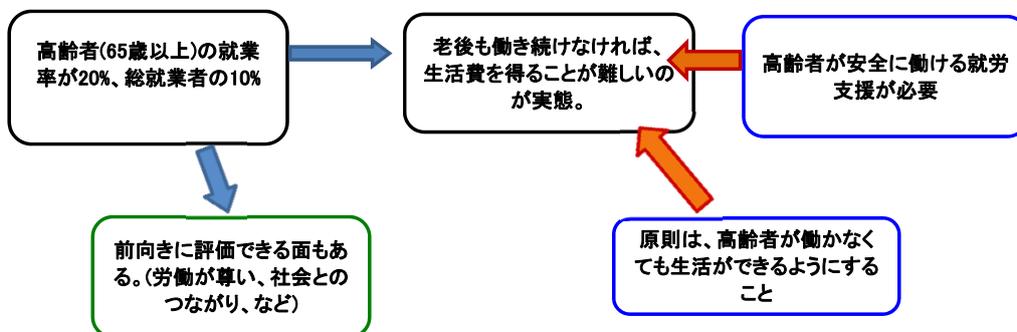
(6) 関係性・つながり構築の不備 - 助けの届かない



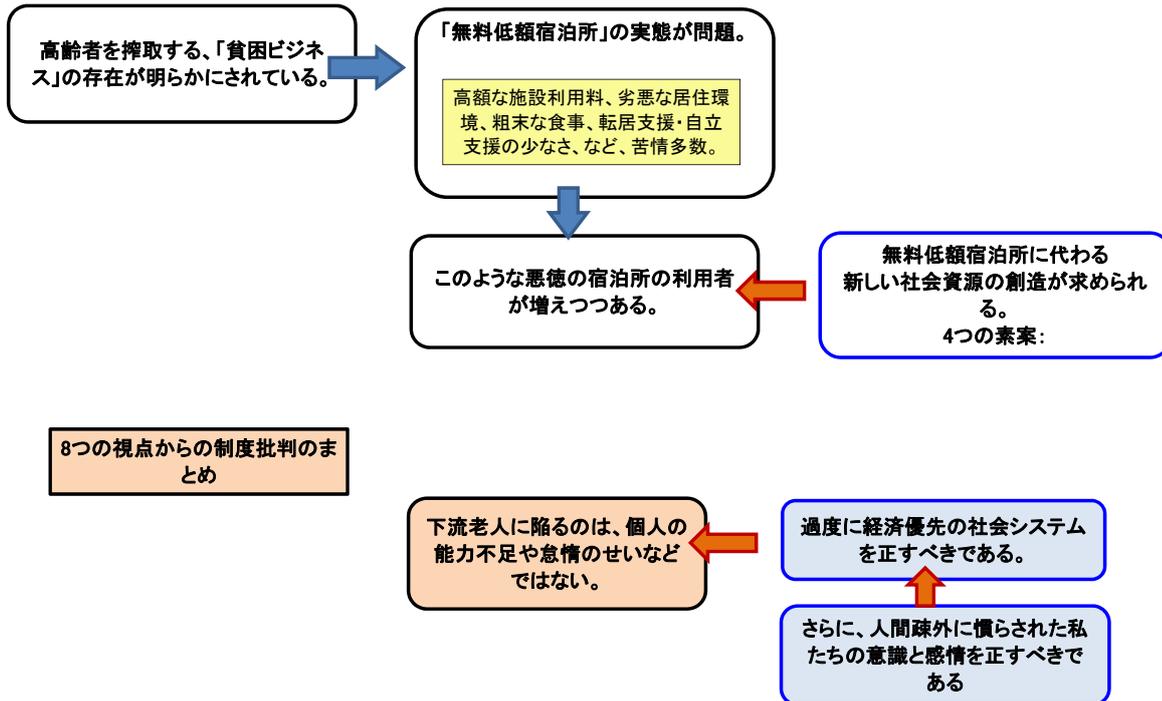
(7) 生活保護の不備 - 国によって操作される貧困の定義



(8) 労働・就労支援の不備 - 死ぬ直前まで働かないと暮らせない!?

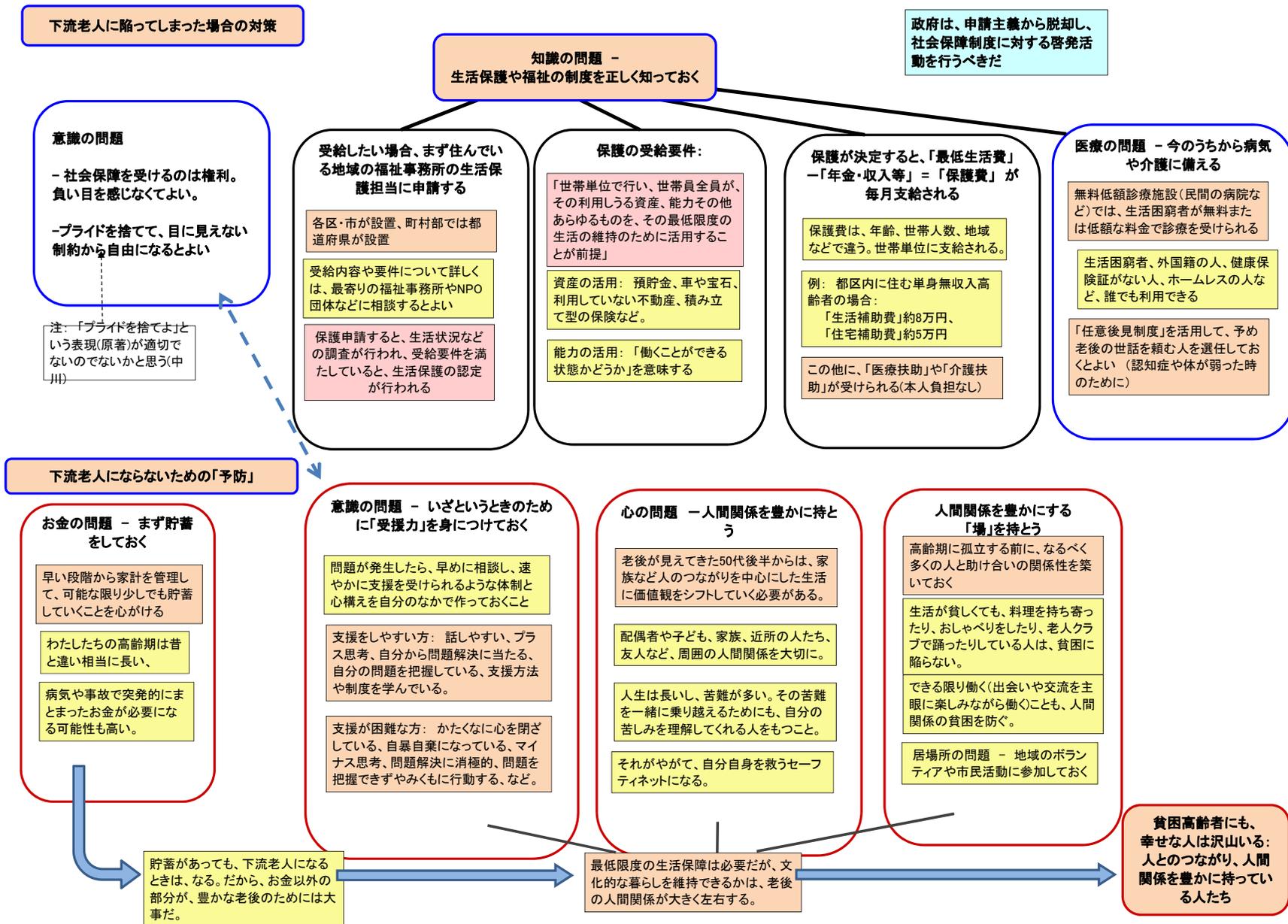


(コラム3) 下流老人の生き血を吸う「貧困ビジネス」



第6章 自分でできる自己防衛策 - どうすれば安らかな老後を迎えられ

「その論点のまとめと可視化（「札寄せツール」による図示）」（中川 徹、2015.12.29）



下流老人問題に対する著者なりの提言をまとめておく

